

審議会等名	平成 26 年度 第 3 回 図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 27 年 2 月 24 日 (火) 午後 2 時～3 時 50 分
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	<p>【協議会委員】</p> <p>宮島泉委員長 五十嵐章雄副委員長 山川幸治委員 石川和子委員 倉品章委員 田村光子委員</p> <p>【説明のための職員】</p> <p>長谷川生涯学習課長 金子生涯学習課長補佐 渡辺文化振興係長 伊藤文化振興係主任</p> <p>【指定管理者】</p> <p>高須館長 菊埼業務責任者 竹内副責任者 村山副責任者</p>
協議題	<p>(1) 平成 26 年度 4 月以降の利用状況について</p> <p>(2) 平成 27 年度の事業計画について</p> <p>(3) その他</p>
生涯学習課長	(あいさつ)
宮島委員長	協議題(1)「平成 26 年度 4 月以降の利用状況」についての説明を求めたい。
図書館長	(「平成 26 年度 4 月以降の利用状況」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
山川委員	本年度、図書館システムを新たなものにしたとの説明があった。自宅などのパソコンから利用状況に関する情報などが新たに見られるようになったとのことだが、スマートフォンからも見ることができるのか。
図書館長	スマートフォンからはパソコンと同様に見ることができるが、従来型の携帯では画面構成や使い勝手が多少異なる。
山川委員	おすすめ本とか貸出ランキングなどが見られるようになったのは素晴らしいことだと思うが、新たな情報サービスが加わったことを知らない人が多いのではないか。是非、このことを広く知らせるようにしてもらいたい。
図書館長	広報に努めさせていただきたい。
山川委員	資料 8 ページと 9 ページにある本年度の本館行事の実施状況について、参加者数は昨年度と比べて増減はあるのか。手許に昨年度の資料がないが、「おはなしのじかん 1・2・3」は昨年度と同じくらいではないか。また、1 番上の「おはなしのじかん」は昨年度より増えているような気がする。
図書館長	「おはなしのじかん」や「おはなしのじかん 1・2・3」は、毎月恒例の行事として長い間続いている。そのため参加人数が年度ごとに大きく増えたり減ったりすることはないと認識している。

竹内副責任者	「おはなしのじかん」は昨年度の参加者数が115人で本年度は118人、「おはなしのじかん1・2・3」は昨年度の参加者数が143人で本年度は127人となっている。
図書館長	毎年、「三条地域若者サポートステーション」とボランティア指導者の協力を得て「新聞紙でエコバッグ作り」を複数回開催している。募集定員15名のところ、本年度6月1日の参加者は18人、8月23日は16人と好評を得ていた。ところが、12月13日は5人だった。暮れに向かう時期の開催は参加者への配慮が足りなかったと反省している。参加人数に関するご指摘があったので、説明を加えさせていただいた。
田村委員	資料9ページにある夏の「読書チャレンジスタンプラリー」は、参加した子どもに景品をあげる企画との認識している。 ボランティアとして、下田分館でおはなし会を行っているが、参加人数がふるわない中、この夏休み中に開催された「読書チャレンジスタンプラリー」時期は「どうしたんだろうね、今日は？」みたいな感じで盛況だった。スタンプの達成者は60人と書いてあるが、子どもたちはどんな景品をもらえたのか。
図書館長	雑誌の付録を景品とした。子ども向け雑誌の付録は、本誌と併せて棚に並べることができないので、本誌を棚に並べる前に外している。それを溜めておいて活用している。出版社は多くの子どもに購読してもらうために魅力的な付録を付けるようにしており、子どもに喜んでもらえるグッズとして提供することにした。
田村委員	下田では読み聞かせなどに、なかなか子どもが集まってくれないことが実情としてある。そこで、子どもたちが図書館に足を向けてくれるイベントを開催してもらいたい。
宮島委員長	本館でボランティアとしておはなし会を行う際でも、このようなイベントが絡むと参加する子どもが増えて手応えを感じている。
図書館長	魅力的な企画を考えて実施に努めるとともに、それらの開催があることをどのようにして伝えるかも課題だと思っている。 本年度第1回目の協議会で山川委員から、もっと図書館から学校に向いて案内するようにしてはどうかとの提言を頂戴した。また、長谷川課長の挨拶のなかで、本に縁のない方に図書館に来ていただく方策が求められているとお話があった。図書館の蔵書という市民の財産を、いかに活用していくか一生懸命に考えて行きたい。
石川委員	保育所で行ったおはなし会の様子を写した写真を貼りだしたら好評だった。子どもたちが聞き入っている姿が印象的だった。そこで、親子でおはなしを聞く機会があればと思った。子どもだけでなく親にも参加してもらえる行事を、図書館と保育所が連携して継続的に開催すれば、親子で本に親しむことが浸透するかもしれない。
宮島委員長	1回だけで終わる試みではなく継続性を持った施策を行ってほしい。
図書館長	資料11ページから13ページの「児童サービス（行事、他機関との連携など）」にあるとおり、図書館から外に出て活動することにも努めている。只今のご発言で、この活動の方向性を示唆していただいたと受けとめている。

	<p>三条市では、10 か月健康相談会の会場で絵本を差し上げるとともに親子読書の案内を行う「ブックスタート」を実施している。その後、図書館から保育所や小学校に出向いて読み聞かせなどを行っている。このように0歳から小学生くらいまでの年代には継続的な働きかけを行っている。ところが、それ以降の年代への働きかけが必ずしも十分にできていない。このことについて、今後も委員の皆様からお知恵を拝借できればと思っている。</p>
倉品委員	<p>利用する側として、図書館も変化していると感じている。先ほど説明があった図書館システムも非常に良くなったと思う。図書館のホームページで貸出延長ができるようになったことを評価したい。先ほど指摘があったとおり、まだ知らない人も大勢いるので、大いにPRしていただきたい。</p> <p>一方、施設環境面で改善を望みたいことがある。</p> <p>駐車場をもっと広くしてほしいという思いがあるが、用地確保が難しいことから実現は困難かと思われる。そこで、本館玄関前にある砂利敷きの駐車場を手入れしてもらいたい。水たまりができたりして使い勝手が悪い。</p> <p>また、図書館でゆったりと本を読みたいと考えた時に机と椅子の関係がある。2階に学習室があり、資料を広げて調べたりすることができる。そこで、1階に机は要らないのではないかと思う時がある。例えば、ソファにする、クッションの良い長椅子にする等、ゆったりと窓から外を見ながら読書ができるのも良いと思う。子ども室スペースでも、小さい子どもに机と椅子が要ののかなと思う時がある。机と椅子を片付けて、寝転んで読むというのも行儀が悪いかもしれないが、もっと明るいスペースというのをこれから考えてもいいのではないかと。</p> <p>サービス面で進歩していると思うのは、例えばカウンター前コーナーが良くなった。今はテーマをもうけ、「軍師官兵衛」関連本とか、「アンと花子」みたいな本を展示し、「ああ、面白い本があるな、読んでみようかな」と思わせるように工夫している。</p>
生涯学習課長	<p>三条市として、施設整備について基本的に上位計画である第2次三条市総合計画で施設の長寿化をあげている。今しばらくは旧施設を有効利用させていただきたい。</p> <p>市立図書館には大学図書館とはまた違う面で図書館の貌というものがあり、それは蔵書の質や量にあると考えている。その中で、図書館を利用される方は黙っていても利用される。それだけに留まることなく普段は本に親しんでいない方々にも足を運んでもらうようにしたい。</p>
宮島委員長	<p>本館の玄関ホールに、雨漏りがあるのを修繕してもらいたい。</p>
図書館長	<p>施設の修繕について、砂利の駐車場は窪んだ箇所に砂利を入れて固めることを検討している。玄関ホールの雨漏りに対しては、来年度の修繕費を措置していただいて天井の明り取りからの漏水箇所を直す予定でいる。</p>
宮島委員長	<p>協議題(2)「平成27年度の事業計画」についての説明を求めたい。</p>
図書館長	<p>(「平成27年度の事業計画」について説明)</p>
宮島委員長	<p>ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。</p>
五十嵐委員	<p>学年PTA行事というのがある。去年やった行事を踏襲する例が多くみられるが、</p>

	<p>何をしようかと悩んでいることもある。そこで、学年 PTA 行事として親子で読み聞かせを聞く会の開催を図書館から提案してはどうか。親と子の両方に本を PR できると思うし、潜在的な需要はあると思う。本に触れる機会をできるだけ多く作ることで、図書館の利用増にも繋げることができるのではないか。</p>
図書館長	<p>貴重なご提言、ありがとうございます。</p>
山川委員	<p>図書館長から蔵書という資産の活用という話があった。</p> <p>普段、小学校では教科書教材を使った学習を進めている。そのような中、あえて教科書を使わないことを試みたことがある。3年生の単元で「考えてつなげよう」といった単元があり、図書室に行って自分で本を見つけて、その本を読んでまとめてといった方法で学習を進めたことがある。このような試みが、多くの蔵書を有する市立図書館の活用に繋がればと思っている。</p>
図書館長	<p>学校教育の中で本を活用する機会があれば、市立図書館の本をご案内いただくようお願いしたい。</p>
倉品委員	<p>資料 14 ページにある「重点目標(6) 年齢に応じた事業の展開」について、詳しく説明を求めたい。</p>
図書館長	<p>先ほどお話しさせていただいたブックスタートから始まり、保育所から小学校低学年ぐらいまでは読み聞かせやブックトークを行い、小学校高学年から中学生には、いわゆる 10 代に向けた本をティーンズ文庫として専用の棚を設けて提供している。また、中学生になると職場体験がある。その際に必ず同年代に勧めたい本を聞くようにしている。そして、カウンター前の展示台に、勧められた本を展示し紹介するようにしている。この後の高校生に対する働きかけが十分に出来ているとはいえないのが実情としてある。</p> <p>大学生から社会人には「大人のための朗読会」等、読書会の方に歴史講座を開催していただくなどしていただいている。また、男女雇用機会均等法に応じたコーナーを常設し、毎年前期と後期の 2 回、案内パンフレットを作成し提供している。</p> <p>ご高齢の方に関しては、図書館本館まで足を運べない場合は施設への団体貸出を利用いただいたり、ご近所まで自動車文庫が出向いて利用していただくようにしている。</p> <p>このように年代に応じて、本が人生を豊かにしていく、問題解決のサポートをしますということでやらせていただいている。</p>
倉品委員	<p>図書館利用者に 60 代の人が増えてきている。その年代の利用者は雑誌や新聞のニーズが高い。また、図書館では子ども向けの映写会を多く開催しているが、高齢者が喜びそうな劇映画を上映してみるなど、60 代あたりをターゲットにした事業を考えてみてはどうか。</p>
宮島委員長	<p>高齢者に向けて、おすすめの絵本や紙芝居を紹介していくとよいのではないかと。また、自動車文庫についても、高齢者向けの絵本や昔話などを用意するなどの配慮が必要になっていると思う。</p>
図書館長	<p>ほかの自治体の図書館で、高齢者介護施設で時代劇などの紙芝居を披露して好評を得た例がある。現在、少子高齢化社会を迎えているので、それに応じた施策を考えていきたい。</p>

竹内副責任者	高齢者施設への読み聞かせについて、ボランティアさんとおすすめの絵本や紙芝居などの情報を交換して共有するようにしている。また、自動車文庫で訪問する福祉施設については、利用者の要望に沿う本を提供するように努めている。
宮島委員長	協議題(3)「その他」の事項で、何かご意見や通知などがあれば発言ください。
伊藤主任	(栄分館を更に魅力ある施設とする事業として実施した「めざせ！しかけ絵本日本一プロジェクト」について説明)
宮島委員長	ただいまの説明について、質問や意見があれば発言ください。
山川委員	「しかけ絵本日本一プロジェクト」は、素晴らしい内容の事業と思っている。特色ある図書館の構築として評価している。 この事業で採用したクラウドファンディングは経済用語のようにも聞こえるが、どのようなメリットがあるのか。
伊藤主任	クラウドファンディングはウェブで不特定多数の方から支援金を集めることを目的に運営しているサイトを利用して実施した。図書館に関するプロジェクトを実施したことがあるサイトを利用することで、図書館全般に関心があり図書館に関わる事業を支援したいと考えている方に向け「しかけ絵本日本一プロジェクト」の事業内容が届けやすく支援が得やすいのではないかと考えた。 また、クラウドファンディングの活用自体が話題となったことで「しかけ絵本日本一プロジェクト」の活動を知る方も増え、ウェブ等を利用しない方からも生涯学習課へ直接寄附の申出を頂戴することに繋がった。
宮島委員長	「しかけ絵本日本一プロジェクト」の活動について全国から反響があったということと、1,000冊所蔵することで日本一と判断したことについて、それぞれ説明してもらいたい。
伊藤主任	クラウドファンディングでは、新潟県以外の方も含めて24件の支援をいただいた。 また、クラウドファンディング以外の事業で、栄分館の愛称を募集したところ、北海道や愛知県など全国の方々から応募いただいた。 しかけ絵本の数を数えている図書館があまりないので、なんともいえないが、国会図書館をはじめとした大規模な図書館や、子ども専用の図書館では1,000冊以上のしかけ絵本を所蔵しているかもしれない。栄分館のような蔵書3万冊規模の図書館で、これだけのしかけ絵本の蔵書がある例は見受けられない。また、そのすべてを支援でまかなっているような図書館は他にはないと思っている。
田村委員	しかけ絵本は栄分館に行かなければ利用できないのか。カタログみたいなものがあるって、それを見て申し込みば下田分館に取り寄せることができるのか。
伊藤主任	基本的には、図書館のスタッフに相談いただくか、図書館のホームページで検索して選び予約いただければ、栄分館以外でも利用することができる。しかけ絵本だけのリストは現在用意していないが、各館に設置した利用者用端末で調べることができる。
田村委員	せっかくこんな素晴らしいしかけ絵本を揃えることができたので、図書館から離れた地域の方にも見ていただきたい。
宮島委員長	おはなし会などで紹介してはどうだろうか。

伊藤主任	多くの方に利用していただきたいと思っている。
田村委員	しかけ絵本を借りることはできるのか。
伊藤主任	貸出も行っている。
宮島委員長	しかけ絵本は、大人も十分に楽しめる。
田村委員	栄分館以外でも利用したい方がいるのではないか。おはなし会の際に借りて行って見せてあげれば喜んでもらえると思う。
石川委員	栄分館の入口についてだが、思わず入りたくなるような工夫をした方が良いと思う。なんとなく通り過ぎてしまうように思える。入口に「しかけ絵本日本一」をアピールするものを掲げてみてはどうか。小さなものではなく大きなものを掲げた方がインパクトあると思う。
伊藤主任	今後の検討課題としたい。
宮島委員長	協議題(3)「その他」の事項で、他に何かご意見や通知などがあれば発言ください。
図書館長	<p>近日開催する催物等について案内させていただきたい。</p> <p>まず、生涯学習課主導で中央公民館が中心となって開催する「まちなか文化祭」に図書館も参加する。「まちなか文化祭」は中央公民館を中心に図書館や資料館などの近隣にある文化施設が手を携えて例年この時期に文化祭を開催している。ちなみに、去年は倉品委員にグリム童話の大人向けの解説をしていただいた。今年は2月28日土曜日と3月1日日曜日に開催する。</p> <p>図書館では、「子ども映画会」「しかけ絵本 de 読み聞かせ」「カレンダープレゼント」を開催する。「しかけ絵本 de 読み聞かせ」では、「しかけ絵本日本一プロジェクト」実行委員会の委員長と委員の方に読み聞かせをお願いしている。しかけ絵本を多くの方に見ていただきたく企画した。</p> <p>次に、3月1日から31日までエクステンジ展示を行う。エクステンジは相互に交換するという意味で、燕市、三条市、長岡市の3地域の図書館がお互いの郷土の有名人とか芸術家を紹介するパネルを作成して相互に展示する。併せて、パネルで紹介した人物に関する蔵書も展示する。このように地域的な広がりのある試みもしているので、ぜひご覧いただきたい。</p> <p>また、新潟県図書館協会報の昨年10月号と本年1月を配布させていただいた。昨年10月号には、当協議会の研修視察として訪問した南魚沼市図書館が紹介されている。本年1月号には、昨年秋の全国読書週間に当館で開催した催物について、スタッフが寄稿している。それぞれお読みいただきたい。</p>
宮島委員長	協議題(3)「その他」の事項で、他に何かご意見や通知などがあれば発言ください。
生涯学習課長	図書館長から案内があった「まちなか文化祭」のについて、地域の活性化だけでなく、まちなかが賑わう機会や世代間交流の場を提供することも目的として取り組んでいる。参加する施設の企画を合わせると、見る・聞く・味わうということが全て楽しめるようになってきている。特に中高年の方々は、健康増進のためにも各施設を歩いて回っていただきたい。このように、潜在化している生涯学習へのニーズを掘り起こす機会を設けるよう取り組んでいる。

	また、そのことが図書館の活性化にも繋がると考えている。今後も多義にわたりご協力いただきたい。
宮島委員長	これをもって、平成 26 年度の第 3 回図書館協議会を閉会とする。